



International  
Accounting Standards  
Committee Foundation®

# グローバルスタンダードへの道

---

IASCF及びIASBの将来像の構築  
「定款の見直し」の開始に当たって  
2008年4月

# 戦略レビューの目的



- IASCF／IASBの今後10年間の将来像を構築すること
- IFRS及びIASCF／IASBが直面する環境変化を見極めること
- 2008年に開始する「定款見直し」について活発な議論を促すこと



# 戦略レビューのプロセス

- Trustee戦略委員会 (Strategy Committee) の設立
- Trusteesの全メンバーによるレビュー
- IASB及びSACとの協議

戦略レビューの成果は「定款見直し」の結論にバイアスを持たせるためではなく、活発な議論を促すためのものである

# IFRSの将来像



- 普遍的に受け入れられた財務報告のグローバルスタンダード
- 明確に表現された原則に基づく基準
- 財務報告の透明性、比較可能性及び一貫性がすべての会社及び国境を越えて実現し、それにより、投資家は効率的に資本の配分を行うことが可能となる

# 使命を再検討すべきか？



- SMEを含む非公開民間企業について含めるべきか？
- より広い範囲の財務報告 (経営者による討議, XBRL, valuation?)については？
- 非営利組織 及び パブリック・セクターに関する問題については—「定款見直し」への問題提起するか？

# 将来像の実現に向けて



## ■ 戦略の4つの要素

- 独立性を保持し、かつ社会に対する説明責任を果たすことができる
- 採用地域の観点からの真のグローバル化
- IFRSブランドの保護
- 官僚的でなく、プロフェッショナルな職業環境での効率的な運営

# 社会に対する説明責任を伴う独立性



- IASBの意思決定の独立性という概念は、基本原則として、合意されたデュープロセスの範囲内にある
- 一方、基準設定活動により影響を受ける関係者の信頼と尊敬を確保する必要がある  
(コミュニケーションの維持と充実)
- 以上から、社会に対する説明責任を重視

# 説明責任に関する課題



- 他に類のない国際機関である
- 基準を課す権限を持たず、かつ、IASBの作業を監視する単一の規制機関がない
- いかなる国・地域からも中立的な立を維持し、国際的に説明責任を果たすことを試みるために、説明責任を実行するための新たな枠組みを作り出す必要がある



# 新モニタリンググループ



- モニタリンググループの設置
- 公的機関への正式な報告体制の確立
  - *Trustee (評議員)の指名の承認*
  - *監視活動及び資金調達に関しTrustees (評議会)からの報告を受ける*
- IFAC Monitoring Groupを想定モデルとするが、構成員については議論が必要

## 多方面、多様な層への説明責任のために



- Trusteesと主要な利害関係者との連携を強化・深耕する、既定の手続以外にも情報提供を受けられるメカニズムを構築する
- 公的機関、政策立案者及び民間機関との定期的な会合を持つために、より良いシステムの構築

# 社会に対する説明責任



- 広い参画の機会—Trusteeの役割の拡大
  - Trusteesの年次総会の開催
  - TrusteeとIASBとの密接かつ正式な連携の継続
  - Trusteeの社会に向けた活動の報告
  - IASBのデュープロセスに関する問題を扱う際の方針を明確にする

# 広い基盤を有する資金調達メカニズム



- IFRSの広範な受益者を包含していること
- 組織的に透明性があること
- IASBの基準設定プロセスの独立性を損なわないこと

# グローバルな組織



- Trustees, IASBメンバー及びスタッフの多様性
- IASBメンバーを16名に?  
4地域に各4人の計16名(グローバルに広がる人材の追加投入)  
大多数はロンドンに所在し, 少数は各地域に配置  
コミュニケーション強化と社会に向けた活動

# IFRSブランドの育成と保護



## ■ 今後のステップ:

- IFRSを主要なブランドとして強化すること
- 「IFRSに準拠して」と記述するための統一的な方針について、IOSCO及びIAASBと共同作業を行うこと
- IFRS準拠に関する実務の状況を確認する定期的な調査を促進すること
- 正確な翻訳書作成のための方針を強化すること

# 機動的な基準設定を行うために



- 透明性の維持と意見・コメントの受け入れ機会を確保することが必要
- IASBが効率的で非官僚的なやり方で運営され、市場のリアリティーに即応可能な、原則主義の基準を設定できるようなデュープロセスを持つことを目標とする
- 直近のデュープロセスの改善策に加え、現行の作業プロセス、IASBの業績レビュー(バランススコアカード)及び作業部会の点検などの実施